

## 目次

習近平「虎退治」の意味するもの——はしがきに代えて…………… 3

**第一部 周永康・徐才厚スキャンダル**

**矢吹 晋**

序章 構造汚職の原型を描いた映画と小説…………… 15

映画『生死をかけた選択』を見る…………… 15

某市市長と国有企業・中陽紡織集団公司との腐れ縁…………… 16

「汚職と腐敗の構造」を描ききる…………… 17

もう一つの正義派市長の奮闘物語・張平『国家幹部』…………… 17

中国の政治腐敗は大岡裁きによって解決できない…………… 19

現実の小説より奇なり…………… 20

第一章 習近平の「虎退治」…………… 21

毛沢東最晩年の二つのクーデタ計画と鄧小平の人事配置…………… 21

空前の汚職まみれとなった江沢民体制…………… 22

胡錦濤による陳良宇上海市書記退治…………… 24

薄熙来夫人のハイウッド毒殺と王立軍重慶市公安局長の亡命騒動…………… 25

薄熙来、周永康、徐才厚、令計画の四人組クーデタ説…………… 27

習近平は雲隠れ（2012年9月1～13日）して何を画策したか？…………… 29

何故、党大会直前に栗戦書が中共中央弁公庁主任に就任したか？…………… 32

第二章 中国人民解放軍の腐敗・墮落

汚職まみれの「紅色後代内部の利権争奪」関係	33
薄熙来クーデタ説の原イメージとしての林彪事件	35
周永康が北京地区の武警を動員した3・19北京政変	38
■コラム1 ■新聞《大紀元》が報じたクーデタ参加予定者18名リスト	40
解放軍に広がる汚職——徐才厚副主席処分	42
谷俊山総後勤部副部長の汚職事件	43
汚職活動に保護傘を与えた徐才厚	45
徐才厚腐敗人脈に連なる侯樹森副參謀長	48
谷俊山摘発では劉源に功績あり、周永康処分では王岐山に功績あり	49
勝者は「紅二代」の習近平、王岐山、劉源の三人組	50
楊尚昆兄弟の追放	53
江沢民の助手として軍内の人事を動かした于永波	55
「瓦房店幫」の二代目ボスとしての徐才厚	57
徐才厚の金庫番・谷俊山の官職売買	58
「徐才厚の腹心・高光輝自殺未遂」という誤報を読む	58
徐才厚「売官」スキヤンダルの核心	60
成都軍区の二人の副司令員・楊金山と阮志柏の「落馬」	60
四川省軍区政委の葉万勇少将とチベット軍区副政治委員衛晋少将の売官・買官	64
徐才厚の腹心、総政治部連絡部前部長・邢運明が「落馬」	66

## 第三章 石油派の栄光と没落

「三大国有石油メジャー」の実態

中国政府を動かす「石油閥」の影響力

余秋里

曾慶紅

周永康

## 第四章 周永康の敗北——立案審査

「刑不上常委」の慣行を破った「対周永康嚴重違紀問題立案審査」

「治国」は「治党」から、「治党」は「治吏」から

90年代半ば以降、「利権の巣窟・石油派」のトップを占める

周永康の石油派人脈の主な人物とその油まみれの関係

周永康の四川省時代の人脈

周永康の中共中央政法委員会の人脈

周永康の家族・親族への便宜供与

周永康を取り巻く4人の女

■コラム2 ■売春斡旋で出世した李東生

## 第五章 習近平の権力固め作戦

「小組治国」とも呼ぶべき「施政モデル」

重要事項の最終決定は「小組」のみが行う習近平独裁

「中央文革小組」にそっくりのトップダウン体制

第II部 摘発を免れた「大虎」の群

矢吹 晋

第一章 腐敗の根源としての江沢民・曾慶紅人脈

中央全面深化改革領導小組四次會議における習近平報告	110
舞台周辺での圧力パフォーマンス——プーチン・江沢民会見の怪	112
乗り越えられた中国政治の三つの「潜規律」	113
中央紀律検査委員会は同級監督の力べを突破した	114
壊滅した周永康集団	115
周永康の徒党一覧	116
拙著『中国の権力システム——ポスト江沢民のパワーゲーム』の間違い	129
江沢民とはどのような人物か？	131
習近平の「虎退治」は江沢民まで及ぶのか？	133
江沢民系前常務委員の賈慶林と賀国強も取り調べ中	134
曾慶紅の実弟・曾慶淮とその娘・曾宝宝をめぐる疑惑	136
国营企業の払い下げで巨万の富をせしめた曾慶紅の長男・曾偉	137
魯能集団事件をもみ消した曾慶紅	138
江沢民の金庫番・王宗南の上海益民は江沢民が大卒後、最初に働いた会社	139
なぜ長春「一汽」と上海の「一汽大衆」に捜査が入ったか？	140
長男・江綿恒は親の七光りで中国科学院副院長に	142
中国移动通信のスキヤンダルの陰に江綿恒がいる	144
空前の汚職・腐敗をもたらした院政10年	145

■コラム3 ■「中央610弁公室」	147
第二章 電力を牛耳る李鵬一族	149
天安門事件の下手人で最も不人気の首相・李鵬	149
李鵬一族は五大電力集団の5分の3、発電量の5分の4を支配する	150
第三章 温家宝ファミリーの隠された資産	155
ヘッジファンドで荒稼ぎする息子の温雲松	155
温雲松の資金源は平安保険の馬明哲から	157
『ニューヨーク・タイムズ』のスクープのネタ元は？	161
馬明哲に密告された温家宝27億ドルの舞台裏	163
温家宝はどのようにして追及を逃れたか？	164
第四章 馬明哲という男の蓄財物語	167
際限なく広がる富の寡占	167
「米国並み」の報酬を受ける経営者たち	168
共産党官僚という中国の新たな支配階級	171
金融業上場公司董事長の年収ランキング	173
役員報酬を決定する基準は何か？	174
第三部 泣く子も黙る中央紀委・監察部	179
第一章 特権高級党員幹部をいかに取り締まるか？	179
「中央紀委・監察部」の名称の由来と花々しい活躍	179

中国共産党には創設期から腐敗がつきまといっている	180
大きな成果を上げた建国直後の紀律検査委員会	182
毛沢東時代の監察委員会	183
鄧小平時代における中央紀律委と監察部の合同執務	184
共産党高級幹部に対して、公安警察や検察官は捜査・逮捕権を持たない	186
中央紀律委と監察部との合同執務によつて共産党高級幹部の捜査・尋問が可能になった	188
■コラム4 ■高級幹部・中国の党务・公務員・軍人・警察の階級別区分とその対応関係	190
党委員会委員と紀律検査委員とは「同じ穴のムジナ」である	192
2013～2014年の腐敗処分は、胡錦濤政権時代の4～5倍になった	194
<b>第二章 中央紀委・監察部と「五人小組」の設立</b>	<b>197</b>
中央紀委・監察部の組織構成と権限強化	197
省級レベルの党委「五人小組」とは何か？	200
「五人小組」の権限が内蔵している組織的矛盾	204
山西省の一部失脚幹部には降格転職先が用意されるといふ奇妙な処置がとられた	206
差別的処分を受けた紀律検査委員と土着幹部たち	211
<b>第三章 中央紀律検査委が強大な権限を振るう悪夢</b>	<b>213</b>
「五人小組」が党委常務委員会に取つて代わる危惧	213
「五人小組」への権力の集中を危ぶむ声	214
紀律検査委を利用すれば政治局委員を失脚させ得る	216
地方紀律検査委は上級党委の介入を招く愚行を避けたがる	217

#### 第Ⅳ部 共産党独裁の不可避の産物としての腐敗

矢吹 晋

紀律検査委が薄熙来のような野心を持つ者に乗っ取られたら……………

■コラム5 ■中央紀律検査委員会の特殊用語……………

218

### 第一章 省・部級高官腐敗の現状

政治上で派閥を結び、経済上で互いに利用し合う「利益共同体」……………

227

### 第二章 中国の特権階級の所得について……………

全国党政幹部は「特権有産階層」、「地庁級以上幹部」は「官僚特権階層」である……………

240

「地庁級以上幹部」の財産と住宅……………

240

「県処級以上幹部」の「財産調査」はうやむやに……………

242

地域間の幹部収入の格差……………

242

高級幹部子女が「五大経済部門」を握る……………

243

億万富豪の「合法を装う非合法所得」……………

244

「権貴官僚家族」がまず豊かになった……………

245

### 第三章 「経済犯罪容疑者」の海外逃亡の実態……………

247

### 附録 第18回党大会以降に「落馬」した省・部長級以上の高官一覧……………

251

### 「虎退治」始末―あとがきに代えて……………

258